

令和8年度第2回南三陸町歌津観光交流施設検討委員会 会議録

1 日 時：令和8年8月7日（金）午後3時から午後4時40分

2 出席委員：9名

牧野隆明委員、栗林美知子委員、及川庄弥委員、佐藤太一委員、吉田信吾委員、
三浦洋昭委員、高橋直哉委員、内ヶ崎彩委員、滝川剛盤委員

3 欠席委員：4名

阿部洋委員、阿部國博委員、中村未来委員、今藤和義委員

4 出席職員：4名

商工観光課長 小野寺洋明（事務局）

商工観光課長補佐兼係長 佐藤守謹（事務局）

商工観光課主事 佐藤悠（事務局）

商工観光課主事 山下栞奈（事務局）

午後3時開会

（佐藤補佐）

皆様、本日はお忙しいところお集まりをいただきありがとうございます。ただいまから、第2回南三陸町歌津観光交流施設検討委員会を開催いたします。本日の会議ですが、出席委員9名、欠席委員4名となっており、南三陸町歌津観光交流施設検討委員会設置要綱第6条第2項の規定に基づき、委員の過半数が出席されておりますので、会議が成立することを申し上げます。それでは、早速会議に入りたいと思います。まずは、課長の小野寺から1点ご報告がございます。

（小野寺課長）

皆様、本日はお忙しいところお集まりをいただきありがとうございます。

事務局から、7月中旬に開催した前回会議において、説明不足があったと感じておりますので、補足させていただきます。前回会議において、議論の順番がソフト事業の検討が先ではないかとのご意見をいただきました。まさにその通りだと思います。町といたしましては、6月に開催した「歌津の観光を語る夕べ」におきましても、施設整備に関し賛成の意見をいただいたということで解釈したこと、また、この後、協議をいただく基本コンセプト案にも記載しておりますが、交流拠点のハブ機能が必要であると考えております。そして、それを担う既存施設がないと考えたことから、建設したいといった表現になったものでございます。加えて、町として、新たな施設を建てて終わりではなく、持続的に賑わいを創出していくためには、当然ソフト事業が必要であると考えております。また、既存施設の活用も必要であると捉えておりますし、既存施設で対応できないものについては、新たに整備をするといった方向です。前回会議では、皆様に施設を建てて終わりといった印象を持たれるような説明になってしまったのではないかと反省しております。大変申し訳ございませんでした。

今後は、コンセプトの検討、ターゲットの検討、拠点となる場所の検討、賑わいを創出するための方策を協議していただき、そのためにはどのような機能か、その機能を実現するために必要なハード事業は何か、そのハード事業は既存施設で対応可能なのか、新たに整備が必要なのかと

いった順番で、ご検討をお願いしたいと考えております。

次に、スケジュールでございますが、前回会議では、9月までに検討を終えたい旨の説明をいたしました。これについての補足であります。9月までに場所、人を呼び込むための方策、機能、施設に関してご検討をいただきたいと考えております。しかしながら、人を呼び込むための方策については、ソフト事業になると思いますが、9月までに検討を終えるのは困難であると思いますので、それ以降もご検討をいただきたいと考えております。

今、補足をいたしました考え方にに基づき、今後の会議を進めていきたいと思っております。ご協力よろしくお願いいたします。

それでは、及川会長、議事進行よろしくお願いいたします。

(及川会長)

ただいま、事務局から、今後の会議の進め方について説明がありましたが、委員皆様には多くの意見を出していただきたいと思っております。

次第2「施設の基本コンセプト検討」ですが、事務局へ説明を求めます。

(佐藤補佐)

【資料に基づき説明】

(及川会長)

前回の会議では、基本コンセプトについて、委員皆様から多くの意見をいただきました。それを踏まえて事務局から案が示されました。前回出席された委員の皆様にも、どのような基本コンセプトがいいのか考えていただくよう、お伝えしておりましたので、牧野副会長から順番にお話しいただければと思います。

(牧野副会長)

前回の基本コンセプトの議論の際には、直感的な意見を述べてしまい、事務局には大変迷惑を掛けてしまった。

前回会議で出た意見が資料に記載されているが「大きな施設を作ることが目的ではない」といったことはわかるのだが、資料7ページに記載されている化石展示スペースの規模では、人は集まらなれないと感じる。まずは、基本となる施設を整備して、その後に、必要な機能を整備し、入込数を伸ばしていく考え方がいいと思う。事務局はどのような考え方か。

(小野寺課長)

事務局としましては、施設を建設した後に入込数を伸ばしていくという考え方ではなく、まずは、人を呼び込む方策を考えることが重要であると感じております。それに必要な機能は何か、それを実現するために、ハード面が必要となった場合は、既存の施設で対応可能なのか、もしくは、新たな施設を建てなければいけないのかといった順番で協議いただきたいと考えています。

(吉田委員)

前回会議は所用があり欠席をしたが、事前にいただいた資料を見て、商工会でも様々なアンケ

ートを実施しているので、それと照らし合わせながら自分なりに考えてみた。賑わいを作るというのは、どういう賑わいを作るのかが問題となる。成功例と言われている南三陸さんさん商店街のようなものなのか、どういった方を対象として集まっていたのか、しっかりとターゲットを絞っていく必要がある。多くの方を対象にしてしまうと、結果が散々になってしまい、魅力のない施設になる。

(小野寺課長)

吉田委員のおっしゃるとおりです。ターゲットを絞ることは重要であります。広くターゲットを設定してしまうと中途半端になってしまいます。この件については、次の項目で協議します。

(吉田委員)

承知した。

ここ数カ月、新聞報道等で町の財政難が噂されているが、地域の商工業者の経済状況も思わしくないし、これに加え、一番の問題は、人口が少なくなり、後継問題が発生している。例えば、新たな施設を建てるのはいいが、後世では、誰がそれを運営し、引き継いでいくのかといったところまで考えていかなければ、無責任なのではないかと、最近考えるようになった。先ほど、大きいものを作るのが全てではないといった発言を聞き、一安心した。施設を建てる前に、課題を検討したりすることは重要であり、建設に辿り着くまでのプロセスが大切だ。最小限の投資で最大限の効果を発揮できるような施設になるような議論を重ねていくべきだ。

令和6年と令和7年に南三陸さんさん商店街とハマレ歌津を訪れた来客者にアンケートを行った。商店街に来た理由やどのような買い物をしたのか等がまとめられているが、今回の建設予定の施設がどのような方に来てもらいたいのか等を現在の状況を踏まえて考えるのは勿論だが、未来のことも視野に入れながら議論を進めていくべき。厳しい財政難の時期に、せっかく施設を整備するのだから、後の世代に禍根を残すのだけは避けてもらいたい。

(栗林委員)

ソフト面の話になるが、今回、申請をしようとしている国の交付金には、担い手育成に関するものも補助対象となるのか。

基本コンセプトの中で、歌津らしさというのはとても大事だと思う。資料1ページの「①歌津らしさ」のキーワードを見た時に、これらの言葉から歌津が浮かぶかと言われると、そうは思わない。もう少し、具体的なものでなければいけない。

前回会議では、化石は勿論だが、様々な体験等ができることも大事であるとの話が出たと記憶している。今回の資料にも、展示より体験という言葉が記載されているが、実際に、この町に来た時に、夏であれば、海開きが行われ、海で泳ぐことができる。しかしながら、本物の自然に触れる体験ができるものはあまりないと思っており、そのような体験をできるものが歌津にあればいい。

(内ヶ崎委員)

「みなハピ」にも、本会議の内容を共有し、意見を聞いてきた。単に、大きい建物や新しい施設を作ることを目的としていない点に関しては、賛成である。「みなハピ」のメンバーは新しい

建物の整備を求めている。もし、施設を整備すべきとなった場合、資料に記載されている木育体験の機能を有する施設等は近隣の市にもあり競合してしまうので、協議を重ねて、他にはない差別化を図るような機能の導入を検討してもらいたい。ただ、この件は、まだ先の段階になるので、その際は、地域で子育てをする母親の目線から意見を述べたい。

基本コンセプト案に記載されている、「クロス」の考えについては、「みなハピ」としても、以前から思っていることであり、世代を超えた交流は取り組みたいと考えており、課題として捉えていた。施設が建設され、世代間交流をはじめ、様々なことが交わっていくのは、すごく良いことである。

(滝川委員)

仙台圏の方や県外の方が、時間を掛けてでも、ここに足を運ばなければ、体験できないような施設があれば良いと思っている。私の周りの方からも意見を聞いてみたが、歌津らしさとは何かと考えたときに、この地域にある海を活かし、カヤックやサップといったマリニアクティビティが良いのではないだろうかといった声があった。

また、個人的な意見になるが、建物をもし建設するとなった場合、多額の建設費を費やすのではなく、コンパクトなもので良いと思う。例えば、一室だけで、化石、歌津の海の歴史、文化等を一つの映像として、プロジェクションマッピング形式で提供する方法である。

更に、観光目線でなく、地域コミュニティという視点からは、志津川地区には屋外にバスケットコートが設置されており、小さい子ども達がよく遊んでいる風景を目にする。歌津地区にも、簡単に運動ができる施設があれば、地域の方も気軽に来ることができるのではないだろうか。

(高橋委員)

私は、歌津にしかないものを追求し、漁業体験と化石発掘体験を組み合わせ、他では真似できない、オリジナルのプログラムを生み出し、活動してきた。それを踏まえれば、基本コンセプト案に記載されている「クロス」といった表現はとてもいいものである。なお、化石の展示はとても大事であると思っている。ただ展示しているだけでは、素通りをする方が多いかもしれない。そこで、重要となるのが、資料3ページに記載されている「クロス」の補足である。「見る観光」から「体験する観光」へのクロスと記載されているが、この視点がとても大切になると思う。様々なものをクロスする視点で考えている事務局の基本コンセプト案はとても素晴らしいものだと思う。

(佐藤委員)

前回会議の際に、牧野副会長がエリアで図示して、いろいろ考えられていたのが印象的だった。資料6ページの南三陸ハマーレ歌津を中心としたエリアが賑わって、他に波及していくというイメージが思い浮かんでいる。資料3ページには「歌津観光交流施設基本コンセプト」と記載されているが、施設というよりかは、歌津を盛り上げていくといった起爆剤的なエリアが求められていると感じている。南三陸ハマーレ歌津を中心としたエリアから、歌津の魅力を発信したり、交流の場が生まれていく考えの方が良いと思うので、基本コンセプトは、「施設」から「エリア」といった記載が望ましく、南三陸ハマーレ歌津を中心としたエリアを起点に様々なムーブメントを作る仕組が重要である。

(三浦委員)

基本コンセプト案については、うまくまとまっていると感じる。冒頭の課長の話についても承知した。賑わいを作り出すために、何を中心に取り組んでいくのかが課題であると思う。南三陸さんさん商店街では「食」をキーワードとし、人を集めようという思いがあり立ち上げた。南三陸ハマーレ歌津は飲食店が中心となり、住民の方々も訪れて欲しいという思いがあり立ち上げられたと記憶している。しかしながら、近隣には様々な道の駅が整備され、「道の駅東松島」はオープンから2年で、来客者が100万人を超えたとの情報が入っている。南三陸さんさん商店街の来客者数は現在60万人程であるが、来客者数は減少傾向にあり、買い物に繋がらない観光というのが、大きな課題となっている。東日本大震災後、食を中心として福興市を100回開催した。何度か、大きく売上が減少した時期もあり、試行錯誤をしたこともある。歌津地区は歌津魚竜が有名であるので、それを中心に催しをすれば、人が集まると思う。ただ、毎回同じイベントだと、人は集まらないので、1年ごとに内容を見直すなどし、地元の方が参画できるような取組等も実施していくことが必要だと感じる。

(及川会長)

皆様、ありがとうございます。

歌津を他地域と差別化するためには、魚竜化石を中心とした取組が良いと思う。東日本大震災前に魚竜館があったが、来館者が年間6万人程だった。魚竜化石の他に、ウニ丼を食べることができたり、民俗資料等も展示されていた。周辺エリアとの連携も必要だが、核となる施設がなければ、人は集まらない。ドイツのボン大学から研究に訪れる地域でもあるので、専門家等の指導もいただき、様々な要素を加味しながら、施設の建設をしてもらいたい。

(佐藤委員)

魚竜化石が展示された施設があれば、人が集まると思っているのか。

(及川会長)

それだけ価値のある化石だと思う。

(佐藤委員)

価値のある化石であることは分かるが、施設をただ作ったからと言って、人が集まるわけではない。他にも化石を見れる施設はある。

(及川会長)

世界最古の魚竜化石がこの町にあることを町民ですら知らない。PRもしていない。魚竜館が建設され、展示されていると知ってもらうことができる。

(小野寺課長)

今、協議をしている内容は、基本コンセプトの内容ですので、魚竜館を建てるか建てないかというのは、後で議論していただければと思います。

事務局から提案をした基本コンセプト案では、歌津らしさが伝わらないといった認識でよろしいでしょうか。

(高橋委員)

私は、提案をしていただいた内容が良いと思った。

(佐藤委員)

歌津らしさは点としてはあるので、それをクロスして発信していくと定義付ければ、基本コンセプト案で問題ない。ただ、個人的には、「施設」という言葉を「エリア」等に変えていただければと思う。記載の仕方で、これからの議論のバイアスに大きく関わってくる。

(牧野副会長)

歌津に住む人間として、及川会長と一緒に、魚竜は外せない。魚竜を見せるためには、箱物が必要であり、「施設」という言葉があっても良い。

(吉田委員)

この事業の目的は、賑わいの創出だと思うが、施設の建設というのは、目的を達成するための手段のひとつではないだろうか。

(佐藤委員)

事務局の冒頭の説明を踏まえると、歌津をどのようにして盛り上げるかが事業の目的であり、「施設」というのは、あくまで方法の一つであるため、基本コンセプトに記載をするとすると、施設ありきという見方になってしまう。

(牧野副会長)

承知した。

(佐藤委員)

「施設」「エリア」の他に、どのような表現が望ましいかは悩む。

(及川会長)

事務局にて、本日協議をした内容を基に、基本コンセプトの修正をしていただきたい。
では、次に、ターゲット層の検討について、事務局に説明を求めます。

(佐藤補佐)

【資料に基づき説明】

(及川会長)

ありがとうございます。

高橋委員は化石発掘体験や昆虫展の活動を行っていると思うが、お客さんはどの地域から来て

いるのか。

(高橋委員)

化石発掘体験は仙台市の方が多く、昆虫展は気仙沼市や岩手県の方である。

(吉田委員)

南三陸商工会にて、さんさん商店街来客者へアンケート調査を行った。実施時期はお盆期間中と11月上旬になっている。お盆期間中の実施結果は、県外が167人で、県内が132人。11月上旬に行った実施結果は、県外が105人、県内が194人であった。来客者は40歳以上が3分の2を占めており、家族連れでの訪問が多かった。目的は、観光が1位で、食事が2位、買い物が3位であった。ターゲットを絞る上では、何を追うか、何をするか、何を見せるかといった点を精査していかなければならない。例えば、子どもたちを対象とするならば、飽きないような仕掛けが必要。

(佐藤委員)

ターゲットを選ぶにも、結局、何を売りにするかといった点が深く関連してくる。例えば、子どもをターゲットにする場合は、基本的には、親をターゲットにしないと意味がない。ただ、この件は、内容がもう少し深まった時に、もう一度、議論すべきだと思う。

(吉田委員)

漁業体験では、どのようなことができるのか。

(高橋委員)

季節は限定されるが、船に乗って漁を行う体験ができる。海で行う漁業体験は、私を含む2軒しか行っておらず、陸上の漁業体験が今後、当たり前になってくる。

(吉田委員)

陸上の漁業体験とはどんなものが挙げられるのか。

(高橋委員)

陸上で海産物に触れたり、殻剥きをしたりする等である。

(吉田委員)

漁業体験の実績について教えて欲しい。

(高橋委員)

5月から9月の時期しか行っていないが、今の時点で1,500人程の体験者がいる。

(及川会長)

ターゲット層の検討は一旦このあたりで終わりとし、次の次第3「整備場所の検討」について

事務局へ説明を求めます。

(佐藤補佐)

【資料に基づき説明】

(小野寺課長)

補足をさせていただきます。整備場所の検討となっておりますが、拠点や中心となるエリアという解釈で協議をいただければと思います。また、候補地と記載されておりますが、地権者もいることなので、賑わいを創出するエリアと捉えていただき、どちらかを選んでいただくものではございません。

(高橋委員)

やはり、歌津駅があるし、もともと歌津の中心地であったので、賑わいを創出するとしたら、このエリアしかないと思う。点と点を繋ぐといったクロスという基本コンセプトから考えても、海が見える、マリナクティビティができる、子どもが遊べる公園、高齢者の方がグラウンドゴルフを行うスペース、神社もある等の要素を踏まえれば、このエリア以外考えられない。

(三浦委員)

このエリアはキャンピングカーでの宿泊は可能か。

(佐藤補佐)

浸水区域なので宿泊はできません。

(及川会長)

整備場所の検討については、事務局から提案された場所によろしいでしょうか。

それでは、次第4「導入機能の詳細検討」について、事務局に説明を求めます。

(小野寺課長)

【資料に基づき、説明】

(及川会長)

資料には様々な機能が掲載されておりますが、委員皆様の意見をお聞かせください。

(高橋委員)

化石は、小学生の授業内容になっていたり、学校の先生方の研修内容にも盛り込まれており、教育にも欠かせないものとなっている。保護者の方も子どもが化石を好きか嫌いかわかわらず連れてきたりする。化石は、地元の方や観光客を関係なしに人を集める力を持っていると感じるので、資料7ページに記載されている化石展示スペースは必要である。

(及川会長)

観光協会には、化石を専門とした地域おこし協力隊が在籍していると思う。是非、今後も力を入れてもらいたい。

ハマレ広場には、ふわふわドームがあり、休日には多くの子ども達が楽しく遊んでいる。資料9ページにはテント倉庫が記載されているが、雨が降った日の子ども達の運動場所やグラウンドゴルフをする高齢者の待機場所としての機能も期待され、賑わいの創出に繋がると考えている。

(佐藤委員)

結局、施設がテントであれば、それは問題ないが、最終的には、何をするにしても、その場所で積極的に物事を進めるリーダー的な存在がいないと成り立たない。

(及川会長)

宮城県のグラウンドゴルフの会長は歌津地区の方であり、様々な大会を平成の森で行っている。加えて、毎日、グラウンドゴルフの練習をしている方も数十人いるので、ハマレ広場の活用を促すことは可能である。

(内ヶ崎委員)

歌津地区には点が沢山あるが、それを繋いでくれる存在がいらない。総合的な案内所があればいい。歌津地区に色んな人材はいるが、活動する機会や場所はない。

(牧野副会長)

導入機能について、海を含めて検討することは可能か。

(吉田委員)

それは、マリンアクティビティを行うための整備等の話だと思う。

(小野寺課長)

賑わいを創出するための方策として挙げるのは構いませんが、県や国との調整が必要となります。

(及川会長)

この件については、以上でよろしいでしょうか。

(佐藤委員)

今日はこれで、終わりでいいのか。

(佐藤補佐)

本日の会議では、施設の基本コンセプトと整備場所について検討をいただきました。導入機能の詳細検討には次回以降も深く議論ができればと思います。

(及川会長)

それでは、事務局へ、進行を戻します。

(佐藤補佐)

皆様、長時間のご協議ありがとうございました。

次回の会議の開催日時について、この場で決めたいと思います。

【調整した結果、令和8年8月21日（金）午前10時に決定】

以上で、第2回南三陸町歌津観光交流施設検討委員会を終了いたします。

大変お疲れ様でした。

午後4時40分終了